

我が母校の卒業式にあたり、同窓会を代表してお祝いの言葉を述べさせていただきます。

卒業生の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。

保護者の皆さま、心からお祝い申し上げます。

また、校長先生を始めとする先生方のこれまでのご功勞に対し、心より敬意を表します。

卒業生の皆さん、昨年は、皆さんと共に、「100周年に向け新たな飛躍を！」をテーマに、母校の創立90周年を祝いました。今や、同窓会会員は現在23,400人、実業界、政界、官界、学会等、社会の様々な分野で活躍しています。同窓会はこの貴重な人的ネットワークを活用し、在校生の高校生活がより有意義で豊かなものになるよう、母校発展のためのお手伝いをさせていただいております。

今回卒業される皆さんの同窓会入会を、役員一同、心より歓迎しております。

さて、私が実社会を経験して初めて分かった事ですが、高校時代の友人、先生方との付き合いは、会社などの実社会のものとは異なり、世俗的な利害・打算が絡まない、純真なものであったということです。勉学や生徒会・クラブ活動、あの弥生野祭、体育祭などを通じ、生徒と生徒、生徒と先生との間で純真な連帯感が生まれました。更に、皆さんには、私の時代にはなかった素晴らしい合唱祭がありました。先月も後輩達の演奏を聴きながら、「今の後輩達は卒業後に集まっても、直ぐに校歌や合唱曲をアカペラでハモれ、高校時代の生活が瑞々しく甦るんだろうな」と羨ましく思いました。

これから厳しい生存競争社会に入って行かれる皆さんにとって、高校時代の友人と先生は、心の安らぎを与えてくれ、時には厳しいアドバイスをしてくれる「宝物」です。「縁」あってこの三年間、苦楽を共にされた友達と先生を、どうか大切にしてください。

ところで、私は、少数の天才を除き、人間の能力には大きな差はないと思っています。また、誰にでも得意分野というものがあります。自分の得意分野を見出し、その分野で自分の潜在能力を顕在化する努力をすること、これが大切です。皆さんのこれからの長い人生航路、努力すれば、紆余曲折はあるものの必ず報われる、これが私の人生経験から得た結論です。

さて、「他人を思い遣る心」、「和を貴ぶ心」というものは、日本においてのみならず、国際社会で生活するにおいても、尊ばれるべき、大切な「心」です。英語で、

Put yourself in his or her place.

自分にしてほしいことを他人に行い、自分にしてほしくないことは他人に行うなかれ。

明日の日本を担う皆さんには、この心持を常に胸に秘め、皆さんの素晴らしい能力を、自分だけでなく、是非、日本の社会と国際社会の発展のために活かしてほしいと思います。

時は過ぎゆくのみ、です。ご自分の人生を、チャレンジ精神をもって、楽しく頑張り、思い切り生きてください。

そして、同窓会の一員として、卒業後、皆さんも出席されたあの進路体験発表会の講師になられ、後輩達に、卒業後の皆さんの体験に基づく助言をして下さい。期待しています。

母校は2022年に創立100周年を迎えます。卒業生の皆さん、8年後は、同窓生として、ともに、私たちの母校の創立100周年を祝おうではありませんか。

以上をもちまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、まことにおめでとうございます。

平成26年3月12日

東京都立足立高等学校同窓会会長 金成秀幸